



第4回
ダイバーショナルセラピー
実践発表全国大会

2025・東京

2025年 9月7日(日)

主催：NPO 法人 日本ダイバーショナルセラピー協会



第4回 ダイバージョナルセラピー 実践発表全国大会 2025・東京

プログラム

12 : 00 開会の挨拶 榎本光宏 理事

12 : 05 日本で、世界で、広がるDT (RT) 活動
芹澤 隆子 DTAJ 理事長

12 : 35 <実践発表 4 題> 各発表 10分、質疑応答 10 分
熊谷 由美子・青柳 望・山梨 敬、山村 幸恵、
火口 弥生、河村 真紀・松岡裕子

13 : 25 休憩 15 分

13 : 40 <実践発表 5 題> 各発表 10分、質疑応答 10 分
加藤 真理子、横山 昭宏、能條 晴香、安齋 芳枝、
粕田 陽子・尾崎 美由紀

14 : 40 休憩 15 分

14 : 55 <実践発表 3 題> 各発表 10分、質疑応答 10 分
山本樹、山下 哲也・田邊 笑美子、
矢萩 弘美・山本 裕、草薙 和枝

15 : 45 投票、感想・意見交換、表彰

17 : 00 終わり





日常生活にDTを

氏名：熊谷 由美子／DTW第20期生、・青柳 望・山梨 敬
所属：社会福祉法人 東京聖労院 特別養護老人ホーム つきみの園
所在地：東京都小金井市
職種・資格等：介護福祉士

DTポイント（着眼点）

DTを特別なものとせず、日常生活の中で、誰もが自然に行えるようにしていく。少しずつでもよいので日々継続して行う。

DTストーリー（内容）

- ・四季を通してのDTとして、SONASセッションの実践。
- ・アセスメントに基づいたDTの実践

成果と課題

成果：ご利用者の表情の変化、感情の変化、実践後の変化がみられた。
課題：DT委員以外の職員のDTに対する共通理解



ケアの新常識。楽しさが息づく暮らしのカタチ ～取り組み2年からの可能性～

氏名：山村 幸恵／DTW第19期生

所属：社会福祉法人 愛鍼福祉会 特別養護老人ホーム ゴールデンレイク

所在地：宮崎県

職種・資格等：介護福祉士、ウェルビーイング係長

DTポイント（着眼点）

- ・ご利用者と同じ感情を共有するコミュニケーション
- ・ライフスタイルのエッセンスを含んだお楽しみの時間

DTストーリー（内容）

1. 超高齢化社会を迎える中、安心・安全な生活支援や身体介護が中心でなく「その人らしく生きる」「自分の時間を楽しむこと」を支えるケアが今求められている。ワクワクと一緒に感じる関係性をケアの軸に捉えた取り組みとして、DTWを専門職として配置。職員とご利用者双方が主体となるケアを行っているところである。2年の実践を通し見えたDTWという職種がもたらす可能性や課題について本発表を行う。
2. 事例と実践
事例～「好き」「懐かしさ」や日常の延長線上にあるお楽しみを大切にしたDTの実践
 - ① 楽しませる側から一緒に楽しむ側へシフトすることがワクワクの連鎖を生む
 - ② 遊びもケアという価値観を浸透させ、楽しさを持ち寄れる委員会活動に
 - ③ 専門職としての役割と配置することによるチームビルディングへの影響

成果と課題

取り組んで2年を経過し、当初あった「入浴があるのに」「忙しいのに…」といった声は無くなっている。意味のある目的とQOLの向上をベースにし“とりあえずやってみよう”とライフスタイルから取り組めるようにあえてハードルを下げた。その結果「試しにやってみよう」は「やってみたら案外楽しかった」と職員の意識が変容。「やってみよう」のスピード感は徐々に早くなり、企画はカタチとなりDT実践が増えている。会議では、楽しさの視点を持ち寄れるようにし、“遊びもケア”という新しい価値観を意識できるように開催しているところである。また現状では、施設においてDTWが専門職としての位置づけはほとんどない。配置が無いからこそ「役割の見えにくさ」「位置づけの曖昧さ」の課題がある。しかし配置により多職種連携は自然に生まれ、DTを意識したケアに繋げることが可能である。自身の課題として、専門職としてDTWスタッフと共に目標を持ち実践できるメリットがある反面、専門職に依存傾向に陥りやすいことやDTWスタッフの勤務形態の違いや個々の行動傾向の違いにバラつきがあるため、バランスを取っていく必要がある。働く環境の多様性を求められる今、DTの魅力発信は、施設の魅力度アップ！離職防止、採用強化もできる可能性があると考えている。今後、施設ではテクノロジー活用により、生産性向上が前進していく。それにより生まれるご利用者と一緒に楽しむ時間をDTW、チームでデザインし力を発揮していきたい。全国的にも例の少ない唯一のDTWの専門職として、実践を通しながら多職種やDTWスタッフとの連携による効果の可視化やモデル化は今後のさらなる可能性に繋がると考える。



子ども食堂の運営に携わる認知症高齢者の活躍

氏名：火口 弥生／DTW第2期生

所属：有限会社 あかね福祉サービス

所在地：愛知県名古屋市

職種・資格等：社会福祉士・介護支援専門員・キャリアコンサルタント

DTポイント（着眼点）

趣味活動を通して、利用者の「まだまだ出来る・もっと楽しみたい」を応援してきた。大人の楽しみに着目した時に、誰かの役に立っている・感謝される実感を持つことの大切さに気付いた。

「自分の出来る・やってみたい」で社会とつながる取り組みとして、子ども食堂の運営に関わることとなった。

DTストーリー（内容）

地域の居場所づくりを目的としたNPO法人の子ども食堂で提供するカレーづくりに通所介護の利用者が関わる。月1回の子ども食堂で提供するカレー材料の買い出し、調理、盛り付けを担うことで役割意識を持つことができ、それぞれの得意を引き出すことができた。

ひとり一人の出来る事・苦手な事・やってみたいと思っている事を確認し、全員が役割を持てるよう作業工程を細分化し、作業を通して自信の回復を目指してきた。

成果と課題

カレー作りを通して、月1回ではあるが、繰り返し行うことで作業効率はあがり、新たな作業にチャレンジしたい気持ちも生まれた。当たり前に行ってきた家事能力は認知症を発症しても大部分が保たれていることを実感できた。家族にその様子を伝えることも私たちの大切な役割であると再認識できた。

現状では、子ども食堂に来る子どもたちと直接顔を合わすことがなく、作った実感を十分に持てていない利用者も多いため、自分たちの作ったカレーを手にとってくれる人たちとの交流が持てるように工夫していきたい。



のんびり村花岡に“のん太鮎”がやってきた！

氏名：河村 真紀／DTW第9期生、松岡 裕子／DTW第12期生

所属：株式会社 ホームケアサービス山口

所在地：山口県下松市

職種・資格等：介護福祉士

DTポイント（着眼点）

ミキサー食の方にお寿司の形で食事を提供し、普通食と同じくらいのカロリーが摂れ、実際にお店に行って食べている雰囲気を感じる。

DTストーリー（内容）

入居者の中には疾患や食事形態によって外出、外食が難しい方おられるので、昔よく行っていた馴染みのすし屋「のん太鮎」の店員さんにも協力していただき、のんびり村花岡で「出張のん太鮎」を開催しました。

成果と課題

- ・形があることで、手や箸を使って食べることができた。
- ・ご自身の好きなものを食べることができた（チョイス！）。
- ・当日は「湯呑」や「のぼり」「しょうゆ」「箸」等も実際にお店で使用しているものを用意し、お店で食事をしている雰囲気を楽しめた。



最期の瞬間まで自分らしく生きる

氏名：加藤 真理子／DTW第16期生
所属：ボンズシップ 訪問看護リハビリステーション
所在地：東京都 江東区
職種・資格等：看護師

DTポイント（着眼点）

- ・「最期までその人らしく生きる」ことを支える視点
治療の限界を迎えた患者に対し、医療行為ではなくQOLを重視する「BSC（Best Supportive Care）」「DNAR（Do Not Attempt Resuscitation）」の選択を尊重し、本人と家族の思いを中心にした支援を実践。
- ・本人の「やりたいこと」を最大限実現する工夫
ディズニーやライブ参加、息子へのカードやメッセージ作成など、小さな希望も拾い上げ、リハビリや看護と連動して具体的に支援。
- ・チームアプローチの重要性
看護師・理学療法士・作業療法士・往診医・家族が一体となり、頻回訪問・継続的な計画立案・情報共有で支援。
- ・「実現できなかったこと」にも意味がある
計画や準備のプロセス自体が「生きる糧」となり、セラピーの役割は実現のみではなく、希望を持ち続けられる環境をつくることにある。

DTストーリー（内容）

患者さんに残された時間は1か月。信頼関係の構築にも時間をかけられない中、患者さんとの最期の時間をどのように過ごすのか。

39歳の患者さんになって声をかけたらいいだろう、スタッフ間で何度も話し合いました。

まだまだ時間はたくさんある。諦めるのではなく、楽しむ。そんなDTマインドMAXの訪問看護を紹介します。

成果と課題

（成果）

- ・患者の望みを複数実現（ディズニーシー訪問、七五三写真撮影、公園で鯉のぼり見学、メッセージカードや録音作成）。
- ・本人・家族に「最期まで自分らしく過ごせた」という体験を提供できた。
- ・プロセスを通じてチーム連携の強みが発揮され、家族への安心感と納得感につながった。

（課題）

- ・体調の急変によりすべての希望（ディズニーランド訪問・静岡帰省など）は叶えられなかった。
- ・録音などの実現には体調や薬剤調整が影響し、計画通り進めにくい場面もあった。
- ・「最期まで家で過ごす」ためには、さらに迅速かつ柔軟な支援体制づくりが必要。



事務系スタッフ主体のDT活動

氏名：横山 昭宏／DTW第19期生
所属：社会福祉法人 湘南愛心会 老人保健施設かまくら
所在地：神奈川県
職種・資格等：事務責任者

DTポイント（着眼点）

- 施設イベントに積極的な職員がいない。業務に迫られる現場職員の代わりに事務系職員が主体となることで行事の件数を増やし、利用者の満足度を高める。
- 職員も楽しめるような企画にすることで、積極的に参加できる雰囲気を作る。

DTストーリー（内容）

不足気味の現場職員だけでなく、事務系職員をDT活動に参加させて盛り上げたい。まずはDTの活動が盛んな逗子杜の郷でノウハウを得る。
その後、「外出レク」を事務と看護が連携して実施することから改革を始めた。
介護職からのイベント参加が難しい状況が続く中、事務系職員が主体となり、そこに多職種が協力する体制が確立。
これでマンパワー不足を大幅に解消。現場職員の負担を極力抑えることを意識しながら事務職員とDTWが試行錯誤しながら企画立案と実行を担っている。

成果と課題

（成果）

- 事務系職員が積極的に参加することでイベント件数が増加。現時点では利用者多数を対象とした取り組みが多いが、個人の希望に沿うDT活動も増えてきている。
※DTW人数：2023年度1名 ⇒2024年度3名 ⇒2025年度6名（予定）が影響

（課題）

- 比較的時間に余裕のあるスタッフをいかにうまく取り込めるか。
- 事務責任者・看護責任者が企画立案するケースが多いので、DTWが率先して企画立案⇒実行できるように意識を高められるかが課題。



老健でのDT活動

氏名：能條 晴香／DTW20期生

所属：社会福祉法人 湘南愛心会 老人保健施設かまくら

所在地：神奈川県

職種・資格等：作業療法士

DTポイント（着眼点）

- ・DT活動におけるDTWの役割
- ・DTWと多職種との連携
- ・IADL向上への働きかけ
- ・生活環境の調整・役割づくり

DTストーリー（内容）

- ・介護スタッフと連携し認知症棟利用者のへのアプローチとして、家事作業を通じてQOLの向上、自宅復帰を目指す。
- ・フロアに洗濯物コーナーを用意し、鏡を設置することで自分自身と向き合う機会を作る。
- ・「見える化」された環境が、誰もが気軽に活動できる参加型活動に繋がる。
- ・楽しみを感じることが精神機能の賦活・向上に繋がり、一人ひとりの生活が充実したものとなる

成果と課題

（成果）

- ・DT活動を通して意欲が高まることにより日常生活にも変化が現れた
- ・日々の小さな取り組みを継続しIADLへの働きかけが動作獲得・在宅復帰に

（課題）

- ・DT活動が習慣化するには他職種との連携が必要不可欠
- ・多職種への活動と参加に焦点を当てたDT活動の周知



学校に行こう（半年間の学生生活）

氏名：安済 芳枝／DTW第14期生

所属：株式会社 おいらーく 住宅型有料老人ホーム パープルロード元町

所在地：北海道札幌市

職種・資格等：介護福祉士

DTポイント（着眼点）

H様の「皆と一緒に楽しみたい」という訴えや「学生時代に良い思い出がない」という思いに着目し、学校の授業や行事に模したレクリエーションを企画。

DTストーリー（内容）

授業・行事（4月入学式、5月家庭科、6月遠足、7月運動会、8月図工、9月卒業式・謝恩会）を通してH様の交流機会や楽しみが増える。

成果と課題

（成果）

期間中は楽しい・嬉しい・ウキウキなどの正の感情を表出する機会が増えた。

授業中は参加者と相談・協力する等交流場面が増えた。

終了後、運動のため毎日、併設の小規模多機能型居宅介護事業所 えくぼ（サテライト）に出入りするようになった。喫茶コーナーを利用し職員との談話を楽しんでいる。

（課題）

一緒に参加するようなイベントがないと、同じ建物内にいても「パープルロード」の入居者や「えくぼ」の利用者が交流する機会は少ない。



台湾で神になった父に会いに行きたい ～海外透析実現に向けての取り組み～

氏名： 榎田 陽子／DTW第18期生、尾崎 美由紀／DTW第10期生
所属：医療法人社団 仁誠会 仁誠会クリニック黒髪
所在地：熊本市
職種・資格等：看護助手・看護師

DTポイント（着眼点）

「好きなものアセスメント」を聴取時に、ある通院の透析患者から「趣味ができなくなって、生きていてもなんの楽しみもない」「透析してもきつかばっかり」という言葉が聞かれ、何か楽しみを見つけることはできないかという思いから始まったDT計画だった。その方がたまたま台湾の話をしたとき、とてもうれしそうだったことから、これが生きがいにつながるのではと考えた。

DTストーリー（内容）

透析歴14年(当時)、腰を痛め通院もやっとで、ずっと続けていた居合道もできず、楽しみがないと言われていた。ある日突然(2020年1月)、台湾の保安堂(台湾にある旧日本海軍慰霊のための民間信仰の寺廟)に父親が祀られていると連絡がはいり、お礼も兼ねて台湾へ行きたいと思われていた。しかしコロナ禍で台湾に行けない状態が続き、少し落胆されていた。T氏に楽しみを持ってもらいたく、コロナが落ち着いたなら旅行に行けるという希望を持ってもらいたいと思い、クリニック黒髪で2020年の秋祭りの取り組みで、クリニック内に台湾の保安堂を再現、台湾旅行(海外透析)の紹介を実施した。秋祭り後、スタッフとも台湾の保安堂の話で盛り上がることも多く、台湾に行きたい思いが生きがいとなった。その後、事故や身内の不幸があり塞ぎ込まれていたが、再び台湾に行きたいと、積極的な治療を行い体調を整え2023年に念願の台湾旅行が実現した。旅行先での透析自信もつき2024年には東京の戦没者追悼式にも参加できた。一つのテーマを数年かけて実現までこぎ着けるというDTの息の長いプロセスによって、患者の生きがいやりがいに寄り添いサポートできたと考える。

成果と課題

T氏は透析を行いながらも自らの思いを実現し、また「海外に行くことができる」と「自分らしく生きる」ことができた。その人らしい楽しみを見つけるお手伝いができたことは私たちの喜びになった。今後もクリニック黒髪ではこのような患者の生きがいに着目したDT活動に力を入れていきたいと思う。



「老健デイ」をDT視点で

氏名：山本 樹／DTW第19期生
所属：社会福祉法人 南東北福祉事業団
東京総合保健福祉センター 介護老人保健施設 江子田の森
所在地：東京都中野区
職種・資格等：介護福祉士

DTポイント（着眼点）

- ・活動の中にチョイスを
- ・他者とのかかわり
- ・集団レクリエーションの中でも個人を尊重する

DTストーリー（内容）

2024年より介護老人保健施設の中で週3回、参加希望者やレクリエーション的介入が必要と思われる入居者を募って「老健デイ」という活動が始まった。老健デイでは20～30人の利用者が集まって主に集団レクリエーションを行っている。介護職員が考えたレクリエーションを実施して、ティータイムを挟み、リハビリ職員による体操をして、最後に合唱をします。そこにDTの視点を取り入れて、司会進行をするときにはマイクを利用者に向けて話を聞いてみたり、聞いた話を全員に向けて伝える。サポート役の時には利用者の隣に座って意見を聞き、司会者に伝えることで利用者の意見が反映されるようにした。

成果と課題

（成果）

他のユニットとも協力しており、いつも近くにいる利用者同士ではない人とのかかわりの機会になっている。

参加する利用者からは「また参加したい」など積極的な意見が聞かれており、利用者の意欲につながっている。

（課題）

職員の中には利用者ひとり一人の意見を聞かないでレクリエーションを終えてしまう者もいるので、今後は利用者個人に焦点を当てて実施するというDTの考え方や方法を周知し、DTの視点でのレクリエーションの実施を広める必要がある。



なぜDTが必要か？なぜDT専任を配置できるのか？

氏名：山下 哲也／DTW第13期生、田邊 笑美子／施設長
所属：社会福祉法人 湘南愛心会 特別養護老人ホーム 逗子杜の郷
所在地：神奈川県逗子市
職種・資格等：介護福祉士・介護主任、看護師・施設長

DTポイント（着眼点）

逗子杜の郷の高齢者や職員がどうしたら生き活きと暮らせるのか？を追求し、10年かけてDT活動を積み重ね、介護の現場を改革し、DTワーカーをDT専任スタッフとすることができるに至った足跡を、最初の一人のDTWだった職員と施設長が振り返り、提言する。

DTストーリー（内容）

たった一人のDTワーカーとして、通常の介護業務を実施しつつ、たくさんの職員に「DTしよう」と声かけをしていた。時には予定していたDTの動きを、人員不足で中止された。それでもたった一人の理解者（施設長）がいたから続けて来れた。（山下）
施設のトップとして、高齢者の生きがいや職員のやりがいには、DTワーカーの活動が必須だ。DTワーカーが輝けば高齢者の笑顔が膨らむ。たった一人で頑張っていたDTワーカーからスタートし、職員の理解を広げ、DTワーカーをDT活動専任にすることで職員も高齢者も生き生きと暮らせると信じて全力投球してきた（田邊）

成果と課題

介護の現場は「清潔の保持（入浴介助）・栄養管理（食事介助）・排泄対応（排泄介助）・心のケア（DT活動）」4つの視点からと考え、介護人材の業務改革を実施。この取り組みの目的は、DTワーカーの業務を専従として独立させることで、入居者個人に焦点を当てた活動（アセスメントの活用）ができることにある。しかし、他の介護職員から不満の声も出た。そこで、専任DTワーカー3名を介護の役職者（介護主任・介護副主任）とし、土・日・祝日の介護人材が不足しがちな日に完全フリーとして緊急事態の対応であったり、急な外出希望に同行する等の対応をした。結果、不満の訴えが減り、「DTワーカーが活動してくれるから自分たちの仕事が充実してできるし、イベントも盛り上げてくれるので施設全体が活気が出てきた」「入居者も彼らが来ると表情が違います」等の声が聞かれた。また、日々に活動をブログにあげていることが、ご家族の安心につながり口コミで入居希望者が増えた。職員も退職率が減り（現在10%以下/年）、新規就職希望も増えている。今後は関連の施設でも同様（DTワーカーの働き方）に活動できる様に働きかけていきたい。



笑顔はやっぱり伝染する

氏名：矢萩 弘美／DTW第17期生、山本 裕／DTW第18期生
所属：社会福祉法人 湘南愛心会 特別養護老人ホーム 逗子杜の郷
所在地：神奈川県逗子市
職種・資格等：介護福祉士

DTポイント（着眼点）

前回の第3回「DT実践発表全国大会」での発表から今に至るまで、自分たちの成長も含めご利用者様の望みをどのように叶えられているかを検証する。

DTストーリー（内容）

アセスメントを取っていくうちに、ご家族との関わりが深くなっていくのがわかります。実際にどのような関りをしてきてご利用者のご家族の願いを叶えることができたのか、また、前回の発表でご紹介したご利用者をご逝去されました。その方の最期までの私たちの関りをお伝えいたします。

成果と課題

ご家族からの感謝の言葉やブログ掲載への協力は、他のご利用者家族への刺激となっているように思える。

想像を超える成果を出し、「逗子杜の郷で最期を迎えられてよかった」と思っただけのようにその人らしさを導き出していきたい。



うめ俳句クラブ ～活動の展開と交流の広がり～

氏名：草薙 和枝／DTW第19期生
所属：通所リハビリテーション梅ヶ丘
所在地：東京都
職種・資格等：介護福祉士

DTポイント（着眼点）

- ・レジャー、ライフスタイル、チョイス、コミュニケーションを併せ持ったクラブ活動を展開し、中でもコミュニケーションに注目し、重点的に支援を行った
- ・DT活動に取り組む利用者の様子を見た他の利用者が、自ら新たに別の活動を発足させた。
- ・「施設も一つの社会である」という考え方を広めていく

DTストーリー（内容）

俳句好きの利用者がDTワーカーの支援により、2023年に「うめ俳句クラブ」を発足させた。以来、活動の手順やスタイルが確立され、活動に参加する利用者は順調に増えている。掲示方法の工夫や投稿箱の設置、第3者による評価を導入するなど、支援方法を模索しながら、より活発な取り組みが継続している。

一方で、俳句クラブを見た利用者が、折り紙制作を自発的に開始し、周囲を巻き込んで活発な活動を展開し始めた。

DTの活動やDTに取り組む利用者の姿が、事業所の雰囲気に影響を与え、他の利用者の「自分も好きなことをしたい」「新しい事にチャレンジしてみたい」「ここは好きなことをしても良い場所なんだ」という気持ちの後押しになっている。

それらを通じて、自然に人のつながりが生まれ、『DTの輪』が広がっている。

成果と課題

（成果）

- ・2023年の「うめ俳句クラブ」発足がきっかけで、活発な活動・支援が継続している。
- ・「折り紙クラブ」「トランプクラブ」の自発的な活動が、新たに発足した。
- ・DT活動を通して、利用者や職員間のつながりが広がっている。

（課題）

- ・一人ひとりの状況や思いを把握し、アセスメントや支援を行っていく体制づくりが必要だ。